

中高生を対象にした経済学の入門書は、意外に多く出版されている。レベルは様々だが、大学で習うようなマクロ経済学やミクロ経済学を先取りするような平易な解説書が人気があるようだ。それは、それでとてもよいことだと思う。

私が本書（『経済学の学び方』）で採ったアプローチは少し違っている。本にも書いたように、執筆のきっかけは同級生（日本史教諭の古田幹さん）が昨年まで校長を務めていた慶應義塾高等学校（塾高）での講演（「イノベーションとは何か－シュンペーターの思想形成を考える」）にあった。塾高の教育方針が、「正統と異端のあいだのせめぎ合いの中から革新が生じる」という、私が経済思想史家として長年取り組んできた研究テーマと驚くほど重なっていることに気づいたので、経済学史の中からそのようなテーマに絞ってジュニア向けの本を書いてみたいと思った。

そのような本はジュニアには難しいだろうと思われるかもしれない。私はそうは考えていない。講演のあと、塾高生（1年生から3年生までの有志が熱心に聴いてくれた）が書いてくれた感想文を読んでもみると、彼らの理解力は想像以上であり、半数以上は私の講演のポイントを的確に理解してくれていた。塾高には、高大連携の授業で、三田や日吉から大学の教員が教えに来ているという特殊事情を勘案したとしても、私の判断は揺るがない。高校生の学力をみくびってはならない。彼らが本気を出せば、大学生や社会人以上の実力を発揮することさえ稀ではないのだ。塾高生時代に公認会計士試験や弁護士試験に最年少で合格した例があると聞いても、私は驚かない。

ただし、高校までの経済学案内は、どうしても、すでに出来上がったミクロ経済学やマクロ経済学の基礎理論を懇切丁寧に解説するのが大半を占めている。これはある程度仕方がないことでもある。だが、私の専門が経済学史ということもあり、現在「スタンダード」のように教えられている考え方も、過去には、熾烈な論争を経て形成されてきたものだとすることを伝えなかった。早い時期から、このような意味での「歴史的意識」をもっていると、「正統」だけが経済学のすべてだという根拠なき信仰に陥らずに済む。

塾高の講演では、マーシャル（当時の正統派経済学の大家）のモットー「自然は飛躍せず」を批判したシュンペーターの例を取り上げたが、他方、マーシャルは後に内からも所得決定理論が欠如しているとしてケインズによって痛烈に批判された。マーシャルによって普及した「需要と供給の均衡」という考え方も、限界革命と古典派との価値論をめぐる激しい論争から形成されてきたものだし、マーシャルの前の時代に正統派の代表だったJ.S.ミルも、ヨーロッパ大陸のロマン主義やサン＝シモン主義を吸収した上で、資本主義という経済体制が歴史相対的な制度であるという認識が欠けたリカードを批判的にみるようになったのである。経済学の父と呼ばれるスミスについては、現在でも多くの本が書かれているが、彼が重商主義的な諸規制を批判し、自由競争を是とする資本主義の世界をいち早く見越していたこ

と、そして彼の経済学（『国富論』）が道徳哲学上の仕事（『道徳感情論』）に基礎を置いていたこと（例えば、市民社会のルールを無視した身勝手な行為は、「公平な観察者」の「共感」を得られないので社会的に是認されない）を、ジュニアに対しても正確に教えることが必要である。

繰り返すようだが、以上は高校生にとって決して手が出ないほど難しいものではない。もちろん、それらを教えるには、指導者のアドバイスは要るだろう。だが、高大連携の授業は、なにも塾高だけの専売特許ではなく、全国で行われているので、やる気さえあれば、都会と地方の格差はないと思う。私は、現在教えている大学で、地方の無名校からの進学者を何人も見てきたが、彼らが有名受験校からの進学者と比べて劣るようなことはなかった。むしろ彼らのほうが学習意欲が旺盛で、入学後に非常に伸びた印象さえもっている。私には、都会と地方との教育格差は誇張されているように思えてならない。

コロナ禍を数年間経験して、私たちの学習する方法も変わった。オンライン授業には長短の両面があるが、教材さえ選べば、学びの環境は著しく改善されたと思う。私は、とくに、専門外の分野でのYoutube動画から多くを学ぶ機会を与えられた。例えば、2019年に母親が亡くなり、2020年にすぐコロナパンデミックに入ったので、メンタル面で不調になりかけたときに、花園大学教授（現在は特別教授）の佐々木閑さんの仏教講座から多くを学んだ。

<https://www.youtube.com/@shizukasasaki490>

また、コロナ禍で青少年時代に読んだ名作の朗読サイトがあるのを知り、練達のナレーターが朗読する名作の数々を改めて読んでみる機会を与えられた。とくに、西村俊彦さんと島永吏子さんの朗読を聴くときは、至福の時間であった。

<https://www.youtube.com/@roudokunote/videos>

<https://www.youtube.com/@roudokushima>

京都大学も、オープンコースウェアという無料で観られるチャンネルを公開している。

<https://www.youtube.com/@KyoDaiOcw>

慶應義塾大学理工学部の講義動画も興味深く拝見したし、早稲田大学受験生応援サイトで公開されている政治経済学部の講義も有益だろう。

<https://www.youtube.com/@keiouniversity/playlists>

<https://www.youtube.com/@taikenWASEDAU>

このような学びの環境は、私たちの学生時代には全くなかったものであり、それを活用しない手はない。日本の将来の学問がどうなっていくかは、優れた高校生にかかっている。そのための学びの方法はいくらでもあってもよい。本書は、たまたま、経済学史を題材にとった「学び方」であり、別の方法を否定する意図は微塵もない。